

陳 情 文 書 表 (令和8年6月8日定例会提出)

陳情第17号

起立性調節障害の児童生徒への家庭支援に関する陳情書

令和8年5月25日受理

陳情者 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●  
赤枝 美紀子

(要旨)

現在の文部科学省の不登校の定義は、「不登校児童生徒」とは「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義しています。

- ① 年間欠席が30日以上経過
- ② 断続的、継続的な欠席
- ③ その理由が怪我や入院、経済的理由ではない

この3点が成り立っていると不登校とされ、フリースクールなどの教育的配慮が受けられます。

起立性調節障害(OD)は自律神経の機能失調ですが、不登校生徒の3~4割がこの病気に罹患していると言われます。医師の診断があり病欠とされるケースもあれば、病院で受診できておらず不登校とされている子もいます。

起立性調節障害を発症した子供は、朝体調が悪いため、朝登校を苦痛に感じています。なんとか遅刻登校できたとしても、サポートを受ける機会がなく徐々に授業についていけなくなっていくます。しかし、病気の特性上、午後からは症状が徐々に軽減されるため、活動の時間帯を夕方にならせば、健康な子供と同じように過ごすこともできます。このことから、例えば午後3時以降に公立フリースクールが開設されていれば通級も可能です。しかし、現在の奈良市教育委員会の施策はそれに対応できていなくて、病気の児童生徒への教育的配慮は受けられていない現状です。

市議会議員の皆様におかれましては、どうかこのような児童生徒がおり、このような困難があることを知っていただき、奈良市の教育と福祉の連携施策の向上のために以下の3点について議論していただきたく陳情申し上げます。

- ① 起立性調節障害の学齢生徒に対する義務教育の機会の確保
- ② 起立性調節障害の学齢生徒に、合理的配慮のある学習環境(午後登校のクラスや夕方からの支援、学齢生徒の通える夜間中学校など)の対応
- ③ 起立性調節障害の子とその家庭が支援にたどり着けるようサポート体制の整備

(理由)

現行の中学校やフリースクールは午後3時半ごろまでのところが多く、起立性調節障害(OD)、特に重度の子供は登校がままならず、義務教育の機会を十分に享受できていない状況です。朝登校ですと、起立性調節障害の子供は一番体調が悪い時間帯に登校することになります。親も、頭痛とめまいで苦しんでいる子供を何時間もかけて何とか起床させ、場合によっては仕事を休んで子供の送迎をしています。

起立性調節障害(OD)は思春期の子供の約1割(そのうち重症の子が1%ほど)に見られる「体の病気」であり、孤立することなく学びが保障されるよう支援が必要です。ODの子に時間帯の工夫をせずに「今よりも早く登校できるように努力しましょう」と朝登校という選択肢しか与えないと、無理して病状が長引いたり、遅刻により毎日数時間分の授業が受けられず学習内容が分からなくなってしまいます。

起立性調節障害の人は、時間帯を後ろ倒しにすることで、健康な人と同様にできる活動が増えます。この病気の、午後から体調が良くなっていくという時間的特性に合わせて支援をしていくことで、多くの児童生徒の学びが保障されると思います。

また、起立性調節障害の子供は、医療にたどり着けないことも多いです。病院の精密検査は午前中のみということが多く、ODの疑いがありながらも朝起き上がれないため医療機関を受診できないからです。起立性調節障害になった児童生徒の中には、遅刻、欠席が続くうちに学校に行きづらくなり、引きこもり、フレイル、鬱状態といった二次障害に陥ってしまう子もいるため注意が必要です。

さらに、思春期のお子さんを持つ御家庭では保護者の親が介護の必要な年齢に差しかかっている人もいて、子供が重度の起立性調節障害を発症した上、保護者の親も要介護となると、離職せざるを得なくなります。

このような状況を救うために、家庭と医療と学校をつないでくれる存在があればよいのと思います。高齢者の介護ではケアマネジャーがいて、介護のプランを立て、支援の紹介をしてくれます。起立性調節障害の子を持つ家庭にも、子の「療養期間中の体力づくりと学習のプラン」、「夕方の学習支援や夕方通院できる医療機関の紹介」、「回復後の就学・進学へのサポート」などをコーディネートしてくれる存在があれば、回復までに2~3年もしくはそれ以上かかるOD患者の精神的な安心にもつながります。

家庭・医療・学校がうまくつながらなければ、当事者が暗いトンネルの中から抜け出すことが難しくなります。つなぐ存在はとても大切であり、そこに福祉と教育の連携というコンセプトが入れば、全ての子の幸せのためにみんなで取り組むという意識が高まります。福祉と教育が連携することによって、困っている子供一人一人に本当に必要な支援が届いてほしいですし、連携により地域社会全体が明るくなることを望みます。

以上、陳情いたします。

※起立性調節障害(OD:Orthostatic Dysregulation)とは

思春期の急激な身体成長に自律神経の発達が進まず、起立時に下半身に血液が滞り、脳や心臓への血流が不足する。環境の変化やストレスが引き金になることもある。午前中は

体調が悪く、午後や夜になると元気になる傾向がある。

※起立性調節障害によって引き起こされる症状

朝起きられない、立ちくらみ、目まい、激しい頭痛、倦怠感、動悸、吐き気、食欲不振、腹痛など。もともと感覚過敏のある人は、ODがトリガーとなり音や光、気圧変化の不快感が増幅することもある。